

授業科目	子どもの健康と安全		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	後藤順子						
ナンバリング	E42S157	開講時期	2年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	家族形態の変化、地域社会とのかかわりの希薄化等から子どもの育ちをめぐる環境が大きく変化している。演習を通じて疾病や障がいへの対応、児童虐待が疑われる場合の適切な対応、保育所における食育計画、施設内の環境整備や安全対策、災害に備えてのマニュアルの作成等について具体的に理解する。						
到達目標	(1)保育における保健的観点を踏まえ保育環境や援助について理解する。 (2)関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 (3)子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 (4)関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 (5)保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。 (6)子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(H31年4月改訂、厚生労働省) ※「保育所における感染症対策ガイドライン」(H30年3月、厚生労働省) ※「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(H28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省) ・「フィードバック能力」(2)「見つけた課題について修正や改善をすることができる」を身につける。						
授業計画	第1回	テーマ	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助①				
		内容	子どもの健康と保育の環境を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を振り返り要点をまとめる。				
	第2回	テーマ	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助②				
		内容	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 実習や子どもとのふれあいで体験したイメージを整理しておく。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。				
	第3回	テーマ	保育における健康及び安全の管理①				
		内容	衛生管理について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 実習や子どもとのふれあいで体験したイメージを整理しておく。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。				
	第4回	テーマ	保育における健康及び安全の管理②				
		内容	事故防止及び安全対策について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 実習や子どもとのふれあいで体験したイメージを整理しておく。				

	学修	復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第5回	テーマ	保育における健康及び安全の管理③
	内容	危機管理・災害への備えについて学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 自分が住んでいる地域のハザードマップを見る。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第6回	テーマ	子どもの体調不良等に対する適切な対応
	内容	体調不良や障害が発生した時の対応や応急処置について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 実習での体験を振り返り、体調不良時の対応を考える。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第7回	テーマ	救急処置及び救急蘇生法
	内容	子どもの事故とけが、事故発生時の対応について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 実習での体験を振り返り、事故等発生時の対応を考える。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第8回	テーマ	感染症対策
	内容	感染症の基礎知識。感染症の予防、感染症発生時の対応について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 実習での体験を振り返り、感染症等発生時の対応を考える。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第9回	テーマ	保育における保健的対応①
	内容	保健的対応の基本的な考え方について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 実習での体験を振り返り、学んだことを抽出する。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第10回	テーマ	保育における保健的対応②
	内容	3歳児未満児への適切な対応について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 実習での体験を振り返り、学んだことを抽出する。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第11回	テーマ	保育における保健的対応③
	内容	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 実習での体験を振り返り、配慮の実際についてまとめておく。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第12回	テーマ	保育における保健的対応④
	内容	障がいのある子どもへの適切な対応について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 実習での体験を振り返り、配慮の実際についてまとめておく。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第13回	テーマ	健康及び安全の管理の実施体制①
	内容	職員間の連携・協働と組織的取り組みについて学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 実習での体験を振り返り、連携・協働の必要性についてまとめておく。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第14回	テーマ	健康及び安全の管理の実施体制②
	内容	保育における保健活動の計画及び評価について学ぶ

	回	授業時間外 学修	予習： 実習で学んだ保健活動の計画について振り返る。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
	第 15 回	テーマ	健康及び安全の管理の実施体制③
		内 容	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 「子どもの健康及び安全」で学んだことをレポートにまとめる。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	子どもの健康及び安全 2019年9月第1版 中根順子・佐藤直子編著（ななみ書房）		
参考書・参考資料等	国民衛生の動向 2020/2021（厚生労働省統計協会） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）		
成績評価の 方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・演習態度・レポートにより、「子どもの健康と安全」の理解の程度（50%） ・「フィードバック能力」（2）獲得の程度（30%） ・授業参加度・態度（20%） で評価する。 		
課題に対する フィードバックの方法	授業後に提出されたレポートについては次回の授業にて解説する。 定期試験については採点后講評する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。 定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は県職員として病院や保健所に長年勤務し、山形県立保健医療大学でも実務経験を持つ。		
連絡先（質問等）	授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	社会的養護Ⅱ		授業形態	演習	単位数	1単位	
担当者	伊藤 和雄						
ナンバリング	E42S158	開講時期	2年次前期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、児童福祉施設における施設養護の基本原則、養護の技術と方法、日常生活指導及び施設職員の支援、地域ネットワーク作り等を学ぶ。また、映像視聴やグループディスカッション等を通して日常の活動に流されがちな施設養護を福祉の技術を生かした実践に高められるよう、共に考える。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉施設における施設養護の基本原則、養護の技術と方法、日常生活指導及び施設職員の支援、地域ネットワーク作り等についての視点を説明できる。 「自分で考え、表現できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション、児童の社会的養護とは何か				
		内容	子どもの権利擁護の基本を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P2～P10 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	社会的養護における子どもを理解する				
		内容	社会的養護のもとで生活する子どもの家庭環境、背景を理解する。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P14～P24 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第3回	テーマ	社会的養護の内容①日常生活支援を学ぶ				
		内容	子どもの課題をアセスメントし、支援方法を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P26～P36 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第4回	テーマ	社会的養護の内容②心理的支援を学ぶ				
		内容	社会的養護における心理的支援の特徴、養育者支援の基本を理解する。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P38～P48 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第5回	テーマ	社会的養護の内容③自立支援について学ぶ				
		内容	社会的養護の子どもの退所後の進路状況、自立支援に必要な視点を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P50～P60 まで読む。				

	学修	復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第6回	テーマ	施設養護の生活特性および実際①乳児院等
	内容	施設養護の生活特性と対象者を理解する。
	授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P62～P72 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第7回	テーマ	施設養護の生活特性および実際②障害児施設等
	内容	児童心理治療施設、児童自立支援施設、障害児施設の機能と支援内容を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P74～P84 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第8回	テーマ	家庭養護の生活特性および実際
	内容	里親制度を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P86～P96 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第9回	テーマ	アセスメントと個別支援計画
	内容	アセスメントと個別支援計画、自立支援計画を作成する。
	授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P98～P108 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第10回	テーマ	記録および自己評価
	内容	記録の意義と役割、個人情報保護、守秘義務を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P110～P120 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第11回	テーマ	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践
	内容	社会的養護における保育の専門性、リフレクション、エピソード記述を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P122～P132 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第12回	テーマ	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践
	内容	相談援助の定義、ソーシャルワーク視点を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P134～P144 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第13回	テーマ	社会的養護におけるソーシャルワーク(知識・技術とその応用)
	内容	ジェノグラムの描き方、読み方、エコマップの作製方法を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P146～P156 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第14回	テーマ	社会的養護における家庭支援
	内容	社会的養護施設のDVDを視聴し実際の支援方法を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P158～P170 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第15回	テーマ	まとめ・今後の社会的養護の課題と展望
	内容	これまでの授業の振り返り、ワークシートを用いてまとめを行う。

	回	授業時間外 学修	予習： 既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。 復習： 疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	社会的養護Ⅱ (相澤仁・村井美紀・大竹智編著 中央法規出版)		
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		
成績評価の方法・基準	筆記試験と提出してもらった課題レポートより、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、表現できる能力」(2)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出されたレポートについては、次回の授業にて解説する。定期試験については、採点后講評する。		
授業時間外学修	予習(各授業回約 30 分)、復習(各授業回約 30 分)として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。(約 50 時間) 定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約 3 時間)		
備考	-		
連絡先(質問等)	オフィスアワー 火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	子育て支援		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	吉田一斉、村井弘伸						
ナンバリング	E42S159	開講時期	2年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、保護者に対する保育相談支援について、その特性と展開を学ぶ。また、グループワーク、ロールプレイ等の演習を通して、子育て支援の内容、方法、技術を、具体的に学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士が行う子育て支援の特性、展開について理解できる。 ・保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、具体的に理解できる。 ・保護者などとの信頼関係構築のための知識、技術を習得できる。 ・様々な場や対象に即した支援について、具体的に理解できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	保育と子育て支援				
		内容	保育士が子育て支援を担う意義を理解する。 子育て支援とソーシャルワークについて理解する。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを読み、授業内容を把握しておく。 保育所保育指針を把握しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 保育士が行う子育て支援の意義や役割について、まとめる。				
	第2回	テーマ	子どもの権利と子育て支援				
		内容	子どもの権利について理解する。 子どもの最善の利益を考慮した保育・子育て支援について理解する。				
		授業時間外学修	予習： 児童の権利に関する条約を把握しておく。 全国保育士会倫理綱領を把握しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 子どもの最善の利益を念頭に、保育所保育指針を見直す。				
	第3回	テーマ	保育の専門性と子育て支援				
		内容	保育士に求められる専門性を理解する。 子育て支援の構造を理解する。				
		授業時間外学修	予習： 全国保育士会倫理綱領を把握しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 子育て支援において、保育士に求められる専門性をまとめる。				

第4回	テーマ	子育て支援の展開過程
	内容	子育て支援の展開過程と留意点を理解する。 子育て支援における関係機関との連携について理解する。
	授業時間外学修	予習： 保育所が連携する地域の関係機関・社会資源をテキストで把握しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 子育て支援の展開過程において、保育者が留意すべき点をまとめる。
第5回	テーマ	子育て支援における計画
	内容	計画の必要性と計画策定の方法について理解する。
	授業時間外学修	予習： 計画の概要について、テキストで把握しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 計画作成のグループワークから、自分の考えと他者の考えを振り返る。
第6回	テーマ	子育て支援における記録と評価
	内容	記録の方法・目的・留意点について理解する。 評価の必要性と評価方法について理解する。
	授業時間外学修	予習： 記録の概要について、テキストで把握しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 ジェノグラム・エコマップの作成手順を整理する。
第7回	テーマ	保護者との信頼関係の構築
	内容	信頼関係を築くための基本姿勢について理解する。 面談の基本姿勢について理解する。
	授業時間外学修	予習： 自身が信頼できる人はどのような人か、考えをまとめておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 自己覚知について、整理する。
第8回	テーマ	保護者の理解と関わり方
	内容	保護者の思いに気づくための基本支援について理解する。 保護者をエンパワーメントする視点を理解する。
	授業時間外学修	予習： 自身が保護者と関わる際に、不安な点を整理しまとめておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 他者理解について、整理する。
第9回	テーマ	社会資源の活用と関係機関との連携・協力
	内容	子育てを支援する社会資源を理解する。 関係機関との連携・協力の実際について理解する。
	授業時間外学修	予習： 自身を取り巻く社会資源をまとめておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 ネットワークの中での、保育士の役割を整理する。
第10回	テーマ	保育所等における支援
	内容	保育所の特性を生かした保護者への支援について理解する。 相談・助言における保育士の専門性の範囲と限界について理解する。
	授業時間外学修	予習： バイスティックの7原則を把握しておく。

	学修	復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 実習先における、保育所の特性を生かした保護者への支援の実践について、整理する。
第11回	テーマ	地域の子育て家庭に対する支援
	内容	保育所に求められる地域子育て支援について理解する。
授業時間外学修	予習：	自身の地域における、多様な子育て施策についてまとめておく。
	復習：	授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 子育て支援センターの役割について、整理する。
第12回	テーマ	子どもの虐待の予防と対応
	内容	虐待への対応について理解する。 児童虐待が疑われる家庭への子育て支援について理解する。
授業時間外学修	予習：	要保護児童対策地域協議会について、調べる。
	復習：	授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 不適切な養育等が疑われる家庭への支援について、保育所保育指針を見直す。
第13回	テーマ	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
	内容	保育ニーズの多様化について理解する。
授業時間外学修	予習：	現代における様々な子育て環境について、テキストで把握しておく。
	復習：	授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 ソーシャルワークについて、テキスト第1章を見直す。
第14回	テーマ	障がいのある子ども及びその家庭に対する支援
	内容	障がい受容の過程について理解する。 障がいのある子どもを育てる家庭の心理特性、生活課題について理解する。
授業時間外学修	予習：	児童発達支援センターと、その役割について、テキストで把握しておく。
	復習：	授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 発達障がいの分類と特性について整理する。
第15回	テーマ	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
	内容	問題・課題のある保護者への支援について理解する。
授業時間外学修	予習：	現代における様々な子育て環境について、テキストで把握しておく。
	復習：	授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 保護者のデマンドと、真のニーズについて整理する。
教科書・テキスト	演習・保育と子育て支援（みらい）	
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。	
成績評価の方法・基準	演習態度・レポートにより、「子どもの健康と安全」の理解の程度（50%）、「自分で考え、実践できる能力」（3）獲得の程度（30%）、授業参加度・態度（20%）で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	課題やレポートは、講評や解説を行う。	
授業時間外学修	予習（各授業回30分）：授業範囲のテキストを読んでおく。 復習（各授業回30分）：テキストや配布プリントについて、学習内容を復習し、習得する。	

備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、障がい児・者施設において、10年以上の相談援助業務に従事している。障がい児・者及びその家族に対する相談援助、ケアマネジメントを通して、家族・家庭への子育て支援を行ってきた。その実務経験を生かして、具体的な事例をあげながら授業を行う。
連絡先（質問等）	授業前後に、教室等にて質問を受ける。

授業科目	保育実習指導 I		授業形態	演習	単位数	2	単位
担当者	実習委員会						
ナンバリング	E41S160	開講時期	1 年次後期 (一部集中)	授業時間数	60 時間	授業回数	30 回
必修・選択	保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	実習全般における諸準備や心構え、具体的展開を学ぶことで、実習活動を主体的に取り組むようにする。また、外部講師の講話等を通して、社会人として必要とされる基礎的な力（実務）や協調性や協働性等（態度・姿勢）を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の施設の特色や機能の違いを理解する。 ・実習依頼の方法を学び、社会への礼節を理解する。 ・実習の意義を理解し、深い学びを実現する。 ・実習の事前事後指導を徹底し、実習を有益なものにする。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	保育実習指導オリエンテーション				
		内容	施設見学について				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読しておく。 復習： 実習ノートの p 76-77 を記入する。				
	第2回	テーマ	施設見学オリエンテーション				
		内容	見学コースごとに分かれて、施設の種別、概要について学ぶ				
	第3回	授業時間外学修	予習： 施設見学の際の準備物を確認する。 復習： 見学のしおりを熟読する。				
		テーマ	施設見学				
	第4回	内容	見学コースごとに各施設を見学し、施設の様子、役割、仕事を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 見学する際の質問事項をまとめる。 復習： 実習ノート p 78-79 を記入する。				
	第7回	テーマ	施設見学の振り返り				
		内容	見学を通しての感想をレポートにまとめる。				
	第8回	授業時間外学修	予習： 施設の資料を熟読する。 復習： 見学した際のレポートをまとめる。				

第 8 回	テーマ	教育実習Ⅰオリエンテーション
	内 容	日誌の書き方について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノートのp23を熟読する。 復習： 実習ノートのp24-25をまとめる。
第 9 回	テーマ	教育実習Ⅰ直前指導
	内 容	附属幼稚園主幹教諭による教育実習に向けての指導を行う。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノートのp41-43を読む。 復習： 実習ノートのp43をまとめる。
第 10 回	テーマ	日案指導、教育実習Ⅰ事後指導
	内 容	附属園主幹教諭による教育実習の事後指導と日案指導を行う。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノートp50を読む。 復習： 実習ノートp55をまとめる。
第 11 回	テーマ	施設実習オリエンテーション（調整・保育実習Ⅲ希望調査
	内 容	施設実習の希望調査に関してと、教育実習の依頼事務についての指導を行う。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノートp76-79を読む。 復習： 実習ノートp7を読む。
第 12 回	テーマ	教育実習Ⅰの振り返り
	内 容	次回の実習に向けての振り返りと礼状の書き方の指導を行う。
	授業時間外 学修	予習： 教育実習について振り返る。 復習： お礼状を書く。
第 13 回	テーマ	敬語
	内 容	敬語の使い方について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノートp8を読む。 復習： 実習ノートp8をまとめる。
第 14 回	テーマ	教育実習Ⅱオリエンテーション
	内 容	実習概要を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノートのp52-53を熟読する 復習： 実習概要を理解する。
第 15 回	テーマ	教育実習Ⅲオリエンテーション（調査）
	内 容	選択の教育実習についての希望調査を行う。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノートp46-53を熟読する。 復習： 希望する実習園について調べる。
第 16 回	テーマ	保育実習施設（ねらいと調書）
	内 容	1年次春期、又は2年次夏期に実施予定の施設実習について準備する。
	授業時間外 学修	予習： 「ねらい」「調書」を作成する。 復習： 各種施設での実習の理解を深める。
第 17 回	テーマ	教育実習Ⅱオリエンテーション
	内 容	希望調整と依頼事務
	授業時間外	予習： 実習園の希望を調整する。

	学修	復習： 実習の依頼事務をする。
第 18 回	テーマ	教育実習Ⅲオリエンテーション
	内 容	希望調整と依頼事務
	授業時間外 学修	予習： 実習園の希望を調整する。 復習： 実習の依頼事務をする。
第 19 回	テーマ	保育実習施設オリエンテーション
	内 容	映像資料を視聴し、実習施設種別ごとの日課や仕事について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノート p 76-79 を読み返す。 復習： 配布資料を読む。
第 20 回	テーマ	感染症とその予防について 保育実習保育所オリエンテーション
	内 容	感染症について学ぶ。また、保育所への実習前のオリエンテーションの依頼についての指導を行う。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノート p 7 を読む。 復習： 実習園にオリエンテーションの電話をかける。
第 21 回	テーマ	「感染症」についての理解を深める
	内 容	前回の講義内容を振り返る。
	授業時間外 学修	予習： 前回の資料を読み返す。 復習： レポートを書き、理解を深める。
第 22 回	テーマ	保育実習施設オリエンテーション
	内 容	施設長の講話を聴き、実習に向けての準備や心構えについて学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 質問事項をまとめる。 復習： 講話の要点をまとめる。
第 23 回	テーマ	「施設長の講話」の振り返り
	内 容	前回の「施設長の講話」を振り返り、施設実習への理解を深める。
	授業時間外 学修	予習： 講話内容を振り返り反省点をまとめる。 復習： レポートを書き、更に理解を深める。
第 24 回	テーマ	保育実習施設事前指導
	内 容	全体指導と施設種別ごとの指導、巡回担当教員による個別指導を行う。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノート p 80-81 を読んでおく。 復習： 実習ノート p 82-83 をまとめる。
第 25 ～ 26 回	テーマ	実習報告会
	内 容	全学年対象の報告会であり、全種別の実習についての体験の報告を聞き、次のステップに活かす指導を行う。
	授業時間外 学修	予習： 配布資料を読む。 復習： レポートをまとめる。
第 27 回	テーマ	日案作成演習①
	内 容	日案の基本的な書き方について学ぶ。
	授業時間外	予習： 実習ノート p 50-53 を読む。

		学修	復習： 日案の見本を転写する。
	第 28 回	テーマ	日案作成演習②
		内容	設定保育の部分案を作成する。
		授業時間外 学修	予習： 設定保育の教材案を準備する。 復習： 部分案を修正する。
	第 29 回	テーマ	日案作成演習③
		内 容	部分案を修正し、日案を完成させる。
		授業時間外 学修	予習： 部分案を完成させる。 復習： 日案を完成させる。
	第 30 回	テーマ	まとめと授業評価
		内 容	これまでの授業内容を振り返り、授業評価を行う。
授業時間外 学修		予習： 実習ノートを読み返す。 復習： 提出物についてまとめる。	
教科書・テキスト	<p>幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）</p> <p>保育所保育指針（平成 29 年度 3 月告示 厚生労働省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）</p>		
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する		
成績評価の方法・基準	各領域理解の程度（20%）、専門的技能習得度（20%）、「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）、技能習得の努力度（15%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	レポート等には採点後に講評を行う。		
授業時間外学修	<p>予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分として、授業計画で示された内容を実施する。テキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 50 時間）</p> <p>授業全体を振り返り自己評価し、既習内容の理解を深める。（約 3 時間）</p>		
備 考	<p>実務経験のある担当者による授業科目である。</p> <p>担当者は、実習施設の施設長や幼稚園での主幹教諭であり、実務経験が豊富である。その経験を活かして施設の実情に合った有益な指導を行う。</p>		
連絡先（質問等）	<p>担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。</p> <p>担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。</p> <p>その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>		

授業科目	保育実習・保育所	授業形態	実習	単位数	2 単位
担当者	実習委員会委員及び実習園職員				
ナンバリング	E42P161	開講時期	2年次前期	授業時間数	80 時間
必修・選択	保育士:必修	実務経験のある教員による授業科目		授業回数	一 回
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。				○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。				
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。				
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。				○
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所の概要、保育士の勤務内容を説明できる。 ・ 子どもの個性を知り、それに応じた関わりを試みる。 ・ 観察したことを丁寧に記録できる。 ・ ねらいをもって絵本・紙芝居を選択し、また、子どもの関心を惹く読み聞かせを試みる。 ・ 「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」を身につける。 				
授業計画	実習内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日課、保育士の職務を、観察を通して理解する。 ・ 子どもの成長や遊びの実態について、観察・参加を通して理解する。 ・ 実際に日誌を記入することにより、保育記録の取り方を身につける。 ・ 絵本や紙芝居の読み聞かせを実践する。 ・ 実習態度、保育実習能力の観点から自己評価を行い、自身の課題を明確化する。 				
	授業時間外学修	予習： 実習の意義や目的、心構えについて十分に確認する。体調を含め、実習に向けた準備を整える。 復習： 日誌を記入し、実習の振り返りを行う。			
教科書・テキスト	保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）				
参考書・参考資料等	適宜資料を配付する。				
成績評価の方法・基準	各保育所の評価、学内で課したレポート、提出物、日誌等から、各領域理解の程度（60%）、「フィードバック能力」(1)獲得の程度（16%）、実習参加度（24%）で評価する。				
課題に対するフィードバックの方法	実習後に、園評価・各種提出物の得点は全てフィードバックし、講評を行う。				
授業時間外学修	予習（実習実施各日約 30 分）、復習（実習実施各日約 1 時間）として、授業計画で示された内容を実施する。 フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約 1 時間）。				
備考	実務経験のある担当者による授業科目である。				

	<p>担当者は、実習園にて保育士として業務に従事する実務経験を持つ。保育士としての実務経験を活かして、保育所の日課、保育士の職務、子どもの成長や遊びの実態、保育記録の取り方、子どもとの関わり方について実例を示しながら指導を行う。</p> <p>実習実施にあたっては、「教育実習指導」の単位を修得し、「保育実習指導」で課される保育実習保育所関連の課題を達成していなければならない。</p>
<p>連絡先（質問等）</p>	<p>担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。</p> <p>担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。</p> <p>その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>

授業科目	保育実習・施設		授業形態	実習	単位数	2	単位
担当者	実習委員会委員及び実習施設職員						
ナンバリング	E42P162	開講時期	1 年次後期 (2 年次前期)	授業時間数	80 時間	授業回数	一 回
必修・選択	保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の業務に参加し、実践することで、施設の社会的役割の理解を深め、施設保育士の業務内容を把握し、適切に実践できるようになる。 ・施設利用者（児）と各種活動を通じて関わり、対象の理解を進め、適切なコミュニケーションが図れるようになる。 ・施設利用者（児）のニーズを理解し、状況に応じ、適切な生活支援ができるようになる。 ・施設利用者（児）との関わりを通じて、「コミュニケーション能力」(4)「対話する能力」に広がりを作り、伸ばす。 						
授業計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設で行われている業務に参加し、実践する。 ・入所施設においては、職員の指導の下、利用者（児）の日常生活活動を支援し、自立に向けた援助を行う。 ・施設利用者（児）と各種活動を通じて、コミュニケーションを図り、対象の理解を進める。 ・施設内でのミーティング、研修等を通じて、施設保育士に求められる能力・資質についての理解を深める。 ・実習内容を適切に記録し、活動についての省察を行う。 						
	授業時間外学修	<p>予習：</p> <p>実習の意義や目的、心構えについて十分確認する。体調を含め実習に向けた準備を整える。</p> <p>複数年の実習報告書に目を通し、自分が行く実習先の実習内容の把握に努める。</p> <p>自分が行く施設の実習種別について、教科書等や施設のホームページを参考に施設の理解、利用者の特性などについて、あらかじめ理解を深めておく。</p> <p>復習：</p> <p>日誌を記入し、実習の振り返りを行う。</p> <p>実習報告書を記入し、自らの実習内容をまとめる。</p>					
教科書・テキスト	<p>実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）</p> <p>過去の施設実習の実習報告書（図書館・施設実習担当教員保管）</p>						
参考書・参考資料等	適宜、資料を配布する。						

<p>成績評価の方法・基準</p>	<p>実習施設の評価、実習報告書の完成度、記入された日誌の充実度、各種提出物の提出状況等から、総合的に「コミュニケーション能力」(4) 獲得の程度 (20%)、専門的理解の程度 (60%)、実習参加度 (10%) で評価する。実習報告会報告者は加点あり。</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>実習後に、園評価・各種提出物の得点は全てフィードバックし、講評を行う。</p>
<p>授業時間外学修</p>	<p>予習 (実習実施各日約 30 分)、復習 (実習各日約 1 時間) として、授業計画で示された内容を実施する。フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約 1 時間)</p>
<p>備考</p>	<p>実務経験のある担当者による授業科目である。</p> <p>担当者は、実習園にて施設職員 (施設保育士・指導員等) として業務に従事する実務経験を持つ。施設職員 (施設保育士・指導員) としての実務経験を活かして、施設の日課、施設職員の職務、利用者の生活やニーズの実態、支援 (実習) 記録の取り方、利用者との関わり方・支援のあり方について実例を示しながら指導を行う。</p> <p>実習実施にあたっては、「教育実習指導」の単位を修得し、「保育実習指導」で課される保育実習施設関連の課題を達成していなければならない。</p>
<p>連絡先 (質問等)</p>	<p>担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。</p> <p>担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。</p> <p>その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>

授業科目	保育実習指導Ⅱ		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	実習委員会及び実習施設職員						
ナンバリング	E42S163	開講時期	2年次 前期・後期	授業時間数	44 時間	授業回数	22 回
必修・選択	保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	各種施設での更なる深い実践の場としての、様々な実習に向けての、事前や事後に於ける指導を行い、保育士としての能力が高まるようなプログラムを準備し、学生を導いていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の施設での更なる内容の濃い実習に対応できるようになる。 ・実習毎の事前指導(全体指導や個別指導を含む)を受けることによって、実習への準備の手助けとする。 ・実習毎の事後指導(全体指導や個別指導を含む)を受けることによって、実習を振り返り、学習の手助けとする。 ・〔前期〕「フィードバック能力」(2)「見つけた課題について修正や改善をすることができる」を身につける。 ・〔後期〕「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」を身につける。 						
計画	第1回	テーマ	施設実習事後指導				
		内容	1年次春期休み中に実施した施設実習について、全体指導と巡回車による個別指導を行う				
		授業時間外学修	予習:	シラバスを熟読しておく。 実習日誌に目を通し、反省事項を抽出しておく。			
			復習:	実習を振り返り、実習報告書を作成する。			
	第2回	テーマ	保育実習保育所オリエンテーション				
		内容	「実習のねらい」「実習生調書」の作成を含む				
		授業時間外学修	予習:	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの参考になる部分を読んでおく。			
	復習:		実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。				
	第3回	テーマ	教育実習Ⅱ事前指導(含;履歴書の書き方)				
		内容	実習内容を指導し、履歴書の書き方を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習:	シラバスを熟読しておく。			
			復習:	内容を理解し、履歴書を作成する。			
第	テーマ	保育実習保育所オリエンテーション					

4 回	内 容	実習について指導する	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所を目を通しておく。
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 課された提出物を作成し、提出する。
第 5 回	テーマ	保育実習保育所事前指導	
	内 容	巡回指導教員による個別指導を行う	
授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 提出物に記入しておく。	
	復習：	実習への理解を深め、準備する。	
第 6 回	テーマ	感染症についての講義	
	内 容	感染症についての理解を含める。	
授業時間外 学修	予習：	配布資料を熟読する。	
	復習：	感染症への理解と対処法を学ぶ。	
第 7 回	テーマ	教育実習Ⅱオリエンテーション	
	内 容	指導案（日案）の書き方を指導する。「実習のねらい」「実習生調書」を作成する。	
授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所を目を通しておく	
	復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 課された提出物を作成し、提出する。 実習予定園とオリエンテーションの日程調整をする。 「ねらい」「調書」を作成する。	
第 8 回	テーマ	附属幼稚園主幹教諭による模擬保育と日案指導	
	内 容	現役の幼稚園教諭たちの講義と演習を受講する	
授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 事前に予告された服装と準備物を用意する	
	復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 課された提出物を作成し提出する。	
第 9 回	テーマ	保育実習保育所事後指導	
	内 容	巡回指導教員による個別指導を行う	
授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所を目を通しておく	
	復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく 課された課題を作成・提出する。	
第 10 回	テーマ	施設実習（夏期）事前指導・教育実習Ⅲ事前指導・社会福祉実習事前指導	
	内 容	巡回指導教員による個別指導を行う	
授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所を目を通しておく	
	復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく	

			課された提出物を作成し、提出する 実習予定施設とのオリエンテーションの日程を調整する。
第 11 回	テーマ	教育実習Ⅱオリエンテーション	
	内 容	附属園主幹による全体指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所を目を通しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 課されたレポートを作成し、提出する。
第 12 回	テーマ	保育実習Ⅱ事前指導	
	内 容	「実習のねらい」「実習生調書」を作成する	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所を目を通しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 課された提出物を作成し、提出する。 「ねらい」「調書」を作成する。
第 13 回	テーマ	教育実習Ⅱ事前指導	
	内 容	巡回指導教員による個別指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所を目を通しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく 保育教材や絵本などの準備を行う。
第 14 回	テーマ	施設実習（夏期）事後指導①・教育実習Ⅲ事後指導	
	内 容	巡回指導教員による個別指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所を目を通しておく。
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 課された提出物を作成し、提出する 実習施設に礼状を出しておく
第 15 回	テーマ	教育実習Ⅱ事後指導①	
	内 容	全体指導と巡回指導教員による個別指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所を目を通しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく 課された提出物を作成し、提出する 実習園に礼状を出しておく。
第 16 回	テーマ	保育実習Ⅱ事前指導	
	内 容	巡回指導教員による個別指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所を目を通しておく。

		復習：	<p>実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。</p> <p>実習園とのオリエンテーション日程を調整しておく。</p>
第 17 回	テーマ	教育実習Ⅱ事後指導	
	内容	評価表と全体指導	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。
		復習：	評価を受け入れ、実習を振り返る。
第 18 回	テーマ	保育実習Ⅱ事後指導	
	内 容	全体指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	<p>シラバスを熟読しておく。</p> <p>実習ノートの該当箇所に通しておく</p>
		復習：	<p>実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく</p> <p>課された提出物を作成し、提出する</p> <p>実習園に礼状を書いておく。</p> <p>1年次と2年次の実習日誌を比較して、自身の成長に気付く。</p>
第 19 回	テーマ	施設職員による講話	
	内 容	施設職員などによる「里親制度」についての講義を行う	
	授業時間外 学修	予習：	<p>シラバスを熟読しておく。</p> <p>実習ノートの該当箇所に通しておく</p>
		復習：	<p>実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。</p> <p>されたレポートを作成し、提出する</p>
第 20 回	テーマ	まとめと授業評価・施設実習事後指導②	
	内容	授業全体の振り返りをし、学生からの授業評価をもらう	
	授業時間外 学修	予習：	実習ノートを読み返しておく
		復習：	<p>実習ノートに授業内容を記入し、反芻しておく。</p> <p>課された提出物を提出する</p>
第 21 回	テーマ	実習報告会①	
	内容	自分の希望する分科会での実習報告会に参加し、実習全体を振り返り、将来の保育者としての成長のための糧とする	
	授業時間外 学修	予習：	実習ノートを読み返しておく
		復習：	<p>実習ノートに授業内容を記入し、反芻しておく。</p> <p>課された提出物を提出する</p>
第 22 回	テーマ	実習報告会②	
	内容	自分の希望する分科会での実習報告会に参加し、実習全体を振り返り、将来の保育者としての成長のための糧とする	
	授業時間外 学修	予習：	実習ノートを読み返しておく
		復習：	<p>実習ノートに授業内容を記入し、反芻しておく。</p> <p>課された提出物を提出する</p>
教科書・テキスト	<p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>保育所保育指針（平成29年度3月告示 厚生労働省）</p>		

	<p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）</p>
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する
成績評価の方法・基準	<p>授業への出席の様子、学内で課したレポート、提出物、日誌等から、各領域理解の程度（20%）、専門的技術習得度（20%）、〔前期〕「フィードバック能力」(2)・〔後期〕「学び続け、成長し続ける能力」(1) 獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）、技術習得の努力度（15%）で評価する。</p>
課題に対するフィードバックの方法	レポート等には、採点后、講評を行う
授業時間外学修	<p>予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。</p> <p>テキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 50 時間）</p> <p>授業全体を振り返り自己評価し、既習内容の理解を深める。（約 3 時間）</p>
備考	<p>実務経験のある担当者による授業科目である。</p> <p>担当者は、実習施設の施設長や幼稚園での主幹教諭であり、実務経験が豊富である。その経験を活かして施設の実情に合った有益な指導を行う。</p>
連絡先（質問等）	<p>担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。</p> <p>担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。</p> <p>その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>

授業科目	保育実習Ⅱ	授業形態	実習	単位数	2 単位
担当者	実習委員会委員及び実習園職員				
ナンバリング	E42P164	開講時期	2 年次後期	授業時間数	80 時間
必修・選択	保育士:選択必修	実務経験のある教員による授業科目		授業回数	回
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。 (2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。				○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。 (2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。 (3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。				○
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育全般に参加して、日々の保育のつながりを理解して子どもと関わることができるようになる。 ・子どもの個人差について理解し、関わりを通して一人一人に合わせた援助方法を学ぶ。 ・指導計画（日案）を立案し、最後まで実践する。 ・実践を振り返り、保育士としての課題を明確にすることにより、「自分で考え、実践できる能力」(4)「実践における様々な問題を解決することができる」を身につける。 				
授業計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の実習と同じ保育所（施設側の都合により変更する場合もある）での2度目の実習である。 ・1年次の実習よりも、更に子どもと積極的に関わって保育を実践する。 ・指導計画（日案）を立案し、全日を責任者として保育を実践する。 ・保育者や子ども、保護者などからの多くの学びを活かして、今後の成長の糧とする ・実習内容を適切に記録し、活動についての省察を行う。 <p>授業時間外学修</p> <p>予習：実習の意義や目的、心構えについて十分確認する。体調を含め実習に向けた準備を整える。</p> <p>1年次に記録した実習日誌を読み返し、課題点を整理し、新たな目標を明確に設定する。</p> <p>全日（責任）実習に向けての保育教材の準備をする。</p> <p>復習：日誌を記入し、実習の振り返りを行う。</p> <p>1年次に記入した自らの実習日誌との比較により、自身の成長を確認する。</p>				
教科書・テキスト	<p>実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）</p> <p>1年次の自身の保育実習日誌</p>				
参考書・参考資料等	適宜、資料を配布する。				
成績評価の方法・基準	保育所の評価、記入された実習日誌の内容、事前事後指導の内容により、各領域理解の程度（20%）、専門的スキル習得度（40%）、「自分で考え、実践できる能力」(4) 獲得の程度（20%）、実習参加度（10%）、スキル習得の努力度（10%）で評価する。実習報告会報告者は加点あり。				
課題に対するフィードバックの方法	実習後に、園評価・各種提出物の得点は全てフィードバックし、講評を行う。				
授業時間外学修	予習（実習実施各日約30分）、復習（実習実施各日約1時間）として、授業計画で示された内容を実施する。				

	<p>フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約1時間)</p>
備 考	<p>実務経験のある担当者による授業科目である。</p> <p>担当者は、実習園にて保育士として業務に従事する実務経験を持つ。その実務経験を活かして、保育の日課、保育所職員の職務、園児の生活やニーズの実態、実習記録の取り方、園児や保護者との関わり方・支援のあり方について実例を示しながら指導を行う。</p> <p>実習実施にあたっては、「教育実習指導」の単位を修得し、「保育実習指導」で課される保育実習Ⅱ関連の課題を達成していなければならない。</p>
連絡先（質問等）	<p>担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。</p> <p>担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。</p> <p>その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>

授業科目	保育実習指導Ⅲ		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	実習委員会委員および実習施設職員						
ナンバリング	E42P165	開講時期	2年次 前期・後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	保育実習Ⅲに向けて、事前事後指導を行う。選択実習であるため、前回までの実習の学びと課題を整理し、より深い学びにつなげる。実習報告会での発表を前提に事前事後指導を行う。自己の経験、学びをわかりやすく他者へ伝える方法を考える。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の特徴や機能の違いについての理解を深める。 ・実習を通じた主体的な学びの過程に気づき、確認する。 ・実習を通じて学んだ成果について発表し、発表会を通じて他者の学びについても気づくことができる。 ・〔前期〕「フィードバック能力」(2)「見つけた課題について修正や改善をすることができる」を身につける。 ・〔後期〕「学び続け、成長し続ける能力」(2)「実践の経験を再構築して、専門的知識・理解・技術へと高めることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション 実習希望調査				
		内容	授業、実習の概要を説明する。				
		授業時間外学修	予習： 保育実習施設の振り返りをする。 復習： シラバスを読む。				
	第2回	テーマ	実習希望先の調査（種別、施設概要などについて）				
		内容	実習を希望する施設についてリサーチする。調べた内容をもとに学生間で共有する。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 実習を希望する施設についてリサーチする。 復習： 調べた内容実習ノートにまとめる。				
		テーマ	実習依頼事務作業、実習報告会での発表について				
	第4回	内容	実習の依頼事務作業を行う。実習報告会での発表方法について、確認をする。				
		授業時間外学修	予習： 実習ノートを読む。 復習： 授業の内容を実習ノートにまとめる。				
	第4回	テーマ	実習日誌を元に、保育実習施設の振り返りと自らの課題の明確化				
		内容	保育実習施設の振り返りを行い、学生間でディスカッションする。実習に向けた目標を明確にする。				
		授業時間外学修	予習： 保育実習施設の日誌を読む。				

	学修	復習： 保育実習施設の反省点をまとめる。
第5回	テーマ	保育活動の事前準備と教材研究、実習の写真記録について
	内容	実習先の利用児、利用者に合わせた保育活動の事前準備を行う。学生間で保育案について意見交換を行う。実習報告会に向けた実習の写真記録について、確認する。
	授業時間外 学修	予習： 保育活動の計画を立てる。 復習： 保育活動を改善する。
第6回	テーマ	直前指導（全体指導と巡回者による個別指導）
	内容	実習に向けた目標や事前準備を確認する。
	授業時間外 学修	予習： 実習施設について、調べる。 復習： 授業に内容を実習ノートにまとめる。
第7回	テーマ	巡回者による事後指導
	内容	実習の振り返りを行う。
	授業時間外 学修	予習： 実習報告書を記載する。 復習： 実習の振り返りを実習ノートにまとめる。
第8回	テーマ	保育実習Ⅲ振り返り、実習報告会のための準備①
	内容	実習報告会での発表に向けて、パワーポイントによる映像資料とレジメを作成する。
	授業時間外 学修	予習： 記録した実習日誌を読む。 復習： 資料を作成する。
第9回	テーマ	実習報告会のための準備②
	内容	実習報告会での発表に向けて、パワーポイントによる映像資料とレジメを作成する。
	授業時間外 学修	予習： 資料を作成する。 復習： 発表の原稿を推敲する。
第10回	テーマ	実習報告会のための準備③
	内容	実習報告会での発表に向けて、パワーポイントによる映像資料とレジメを作成する。
	授業時間外 学修	予習： 資料を作成する。 復習： 発表の原稿を推敲する。
第11回	テーマ	実習報告会のための準備④
	内容	作成したパワーポイントによる映像資料とレジメを使ったプレゼンテーションの練習を行う。
	授業時間外 学修	予習： 資料を作成する。 復習： 発表の練習をする。
第12回	テーマ	実習報告会のための準備⑤
	内容	作成したパワーポイントによる映像資料とレジメを使ったプレゼンテーションの練習を行う。
	授業時間外 学修	予習： 資料を作成する。 復習： 発表の練習をする。

	第 13 回	テーマ	実習報告会
		内容	実習について発表する。質疑に対して答える。
		授業時間外 学修	予習： 資料を作成する。 復習： 発表の練習をする。
	第 14 回	テーマ	実習報告会
		内容	実習について発表する。質疑に対して答える。
		授業時間外 学修	予習： 資料を作成する。 復習： 発表の練習をする。
	第 15 回	テーマ	報告会の振り返り、まとめ
		内容	実習準備から実習、報告会での発表を振り返る。
		授業時間外 学修	予習： 実習報告会の振り返りをまとめる。 復習： 振り返りを見直す。
教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年度 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）		
参考書・参考資料等	適宜、資料を配布する。		
成績評価の方法・基準	授業への出席の様子、課題のレポート、提出物、日誌等から、各領域理解の程度（20%）、専門的技能習得度（20%）、〔前期〕「フィードバック能力」・〔後期〕「学び続け、成長し続ける能力」（2）獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）、技能習得の努力度（15%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	レポートに対しては、講評を行う。発表に向けての練習では、プレゼンテーションの視点からコメントする。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 日誌やテキスト、資料を見直し、既習内容を確認する。（約 15 時間） 実習報告会へ向けた資料作り、発表練習（約 15 時間） 授業全体を振り返り自己評価し、既習内容の理解を深める。（約 3 時間）		
備考	-		
連絡先（質問等）	担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。 担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。 その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。 外部からの講師については、授業の前後に質問を受け付ける。		

授業科目	保育実習Ⅲ	授業形態	実習	単位数	2 単位
担当者	実習委員会委員及び実習施設職員				
ナンバリング	E42P166	開講時期	2年次前期	授業時間数	80 時間
必修・選択	保育士:選択必修	実務経験のある教員による授業科目			一回
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。				○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。				
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。				○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。				
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の業務に参加し、実践することで、施設の社会的役割の理解を深め、施設保育士の業務内容を把握し、適切に実践できるようになる。 ・施設ごとの方針について理解を深め、その施設の理念に基づいた支援を行おうとすることができる。 ・施設利用者（児）と各種活動を通じて関わり、対象の理解を進め、適切なコミュニケーションが図れるようになる。 ・施設利用者（児）のニーズを理解し、状況に応じ、適切な生活支援ができるようになる。 ・前回の実習での経験と今回の実習の経験を比較、検証をすることで、「学び続け、成長し続ける能力」 (1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」ようになる。 				
授業計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設で行われている業務に参加し、実践する。 ・入所施設においては、職員の指導の下、利用者（児）の日常生活活動を支援し、自立に向けた援助を行う。 ・施設利用者（児）と各種活動を通じて、コミュニケーションを図り、対象の理解を進める。 ・施設内でのミーティング、研修等を通じて、施設保育士に求められる能力・資質についての理解を深める。 ・実習内容を適切に記録し、活動についての省察から、次の課題を自ら見つける。 				
	授業時間外学修	<p>予習：実習の意義や目的、心構えについて十分確認する。体調を含め実習に向けた準備を整える。</p> <p>複数年の実習報告書に目を通し、自分が行く実習先の実習内容の把握に努める。</p> <p>自分が行く施設の実習種別について、教科書等や施設のホームページを参考に施設の理解、利用者の特性などについて、あらかじめ理解を深めておく。</p> <p>復習：日誌を記入し、実習の振り返りを行う。</p> <p>実習報告書を記入し、自らの実習内容をまとめる。</p>			
教科書・テキスト	<p>実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）</p> <p>過去の施設実習の実習報告書（図書館・施設実習担当教員保管）</p>				
参考書・参考資料等	適宜、資料を配布する。				

<p>成績評価の方法・基準</p>	<p>実習施設の評価、実習報告書の完成度、記入された日誌の充実度、各種提出物の提出状況等から、総合的に「学び続け、成長し続ける能力」(1) 獲得の程度 (20%)、専門的理解の程度 (60%)、実習参加度 (10%) で評価する。実習報告会報告者は加点あり。</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>実習後に、園評価・各種提出物の得点は全てフィードバックし、講評を行う。</p>
<p>授業時間外学修</p>	<p>予習 (実習実施各日約 30 分)、復習 (実習各日約 1 時間) として、授業計画で示された内容を実施する。フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約 1 時間)</p>
<p>備考</p>	<p>実務経験のある担当者による授業科目である。</p> <p>担当者は、実習園にて施設職員 (施設保育士・指導員等) として業務に従事する実務経験を持つ。施設職員 (施設保育士・指導員) としての実務経験を活かして、施設の日課、施設職員の職務、利用者の生活やニーズの実態、支援 (実習) 記録の取り方、利用者との関わり方・支援のあり方について実例を示しながら指導を行う。</p> <p>実習実施にあたっては、「保育実習施設」の実習を終えており、「保育実習指導Ⅲ」で課される課題を達成していなければならない。</p>
<p>連絡先 (質問等)</p>	<p>担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。</p> <p>担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。</p> <p>その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>